注意！ ■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第６号　野　　菜

発行日　平成２０年８月２８日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター県域普及グループ（電話　0197-68-4435）

「いわてアグリベンチャーネット」は９月１日からリニューアル！
新しいアドレスは「ｈｔｔｐ://i-agri.net」（8月中は http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/）

◆ハウス果菜類	草勢維持と障害果の発生防止
◆露地きゅうり	摘葉と重要病害に対する防除の徹底
◆ほうれんそう	気象条件に応じた適切な管理、台風への備えを万全に
◆露地葉茎根菜類	適期収穫と効率的な病害虫防除

１　生育概況

（１）きゅうりは露地栽培では収穫ピークを迎えたことと低温、日照不足の影響で草勢低下がみられ収穫量が減少しています。病害虫では褐斑病、べと病、ハダニ類の発生が見られます。抑制栽培では生育は概ね順調です。

（２）トマトの雨よけ栽培は日照不足により着色が進まないほか収穫ピークを過ぎてやや小玉化傾向です。高温の影響で草勢低下や落花もみられました。また、裂果や葉かび病がやや多い傾向です。露地栽培でも裂果の発生がみられます。

（３）ピーマンのハウス栽培では主枝の摘心が行われ側枝の伸長も順調ですが、低温によりやや草勢が低下してきています。病害虫では斑点病やアザミウマ類の被害がみられます。露地栽培でも低温により草勢の低下がみられますが、着果は良好な状態です。

（４）雨よけほうれんそうは８月上旬の高温により生育不良や土壌病害の発生が見られたものの、その後、気温が低めに経過しているため生育は概ね良好となっています。

（５）レタス、キャベツでは軟腐病等の高温多湿で発生する病害が見られましたが、現在は少なくなっています。雨の影響で圃場に入れず出荷が不安定になっているところもあります。

（６）ねぎの収穫は順次行われていますが、雨の影響で収穫が遅れている圃場も見受けられます。また、アザミウマ類や黒斑病、さび病等の病害虫の被害がみられます。

２　技術対策

（１）果菜類（トマト・ピーマン）

ア　ハウス果菜類

このところの日照不足や今後秋雨前線が活発になるとハウス内が過湿になりますので、十分な換気を行うことが重要です。また、病害虫の防除にはくん煙剤を使用する等、湿度を上げない工夫が必要です。

気温が低下してくることからハウス果菜類では夜間の保温が必要となります。最低気温がピーマンでは１７℃、トマトでは１０℃の時期をめどに保温を開始します。

イ　雨よけトマト

裂果の発生が増えつつありますが、土壌水分の急激な変化を起こさないよう少量多回数のかん水管理とします。ハウス外からの雨水の横浸透にも留意し、ハウス周囲の明きょを再確認しましょう。

また、主枝摘心後は半放任とし、果実に直射日光が当たらないようにします。既に葉かび病の発生が見られますが、これから葉かび病が増加し、疫病の発生もみられる時期を迎えます。前号を参考に防除に努めてください。

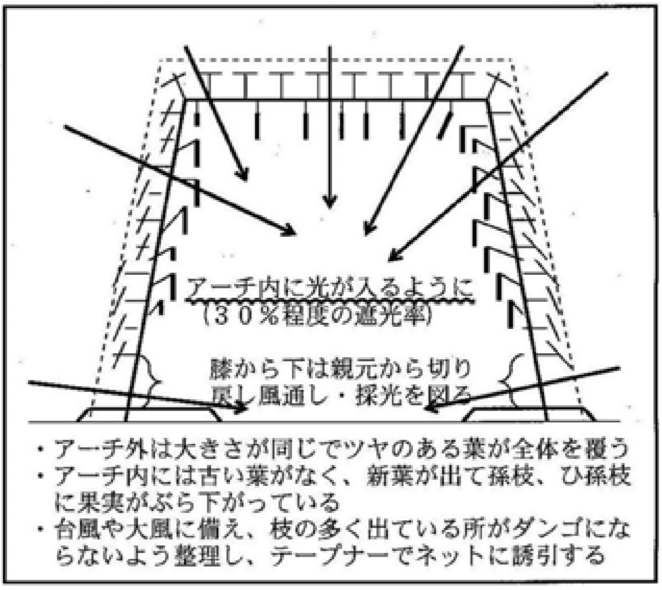
簡易雨よけ栽培圃場では疫病等を中心に防除を実施しましょう。

ウ　ピーマン

ハウスピーマンの主枝摘心は９月初めまでに実施します。ハウス・露地とも尻腐果等はおさまってくるものと思われますが、気温の低下とともに黒変果の発生が増えてきますので、ハウス栽培では保温管理に努めてください。

露地栽培では、斑点病中心の防除が必要です。

（２）露地きゅうり



草勢低下が著しい圃場では不良果の摘果に努めて草勢回復を図るとともに、摘心はアーチとアーチの間に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。

ただし、強風により側枝がもまれ、茎葉の重なり合っている部分は、混み合って病害虫の発生源となる恐れがあるため、適度に摘心する必要があります。

生育後半の草勢は右図のように太陽光がアーチ内部に十分入り込み、新葉が常に発生するように摘葉を行います。

さらに、草勢回復には液肥を薄い倍率で葉面散布することや土壌かん注も有効です。気温も徐々に低下しておりますので、追肥は速効性の資材を利用するようにします。

現在、病害虫は褐斑病、べと病、ハダニ類等の発生が見られますが、今後は特に褐斑病、炭そ病、べと病が増加してくるものと思われますので、発生状況に応じて薬剤を選択し、天候の晴れ間を確認しながら効率的な防除に努めます。特に、アーチの上部に病害がまん延しないように防除に努め、まん延した場合は早めに摘葉してください。

（３）雨よけほうれんそう

８月上旬の高温の影響で、発芽不良や生育の停滞、萎凋病等の土壌病害の発生が多く見られましたが、８月中旬以降は低温寡照の状態が続き生育は落ち着いています。

気象条件に応じた管理を行うことで発芽、生育の斉一化を図りましょう。特に遮光資材の掛け外しを適切に行い、萎れや徒長を招かないようにしましょう。

萎凋病等の土壌病害が多く見られた圃場では、次年度以降の対策として土壌消毒の実施を検討しましょう。具体的な消毒方法については、最寄りの農業改良普及センター等の指導機関にご相談下さい。

今年度、土壌消毒を実施した圃場では、耕耘深を浅めにする、作業機械は洗浄する等、未消毒の土壌が混和して消毒の効果が早期に低下しないように注意しましょう。また、収穫後の圃場には根や残渣を残さない様にしましょう。

本年度の栽培期間も残り少なくなってきます。生育が不揃いで収穫期間が長引く場合には、無理せず収穫を切り上げ、次作の作付け準備をしましょう。

気温の低下や秋雨の影響でハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。

抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して病害が発生しにくい環境にしましょう。

台風の影響を受けやすい時期になります。屋根ビニールが破損したり、ハウス内に雨水が流入するのを防止するためビニールの破れの補修、ハウス周りの排水対策を再度確認します。

（４） 露地葉菜類

ア ねぎ

雨が続いた影響で収穫がやや遅れている圃場が見られます。最終土寄せをした後の日数が長くなると葉鞘部のしまりが悪くなる等して品質が低下します。収穫の２０～３０日前を目安に最終培土は行いましょう。

ネギアザミウマの被害が多く見られていましたが、それに加えて黒斑病や軟腐病、さび病の発生も見られてきています。農薬の使用にあたっては収穫前日数を確認して適切に防除しましょう。

イ キャベツ・レタス

高冷地の定植作業はほぼ終了しています。今後は収穫率が向上するように生育中の栽培管理をしっかり行いましょう。

まとまった降雨により腐敗性の病害が多くなりますので、圃場排水を確認し、降雨後の防除が円滑に行えるようにしましょう。また、収穫終了後の廃棄株や残渣は放置せず、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ヨトウガは第２世代の防除時期となっています。産卵数がやや多い傾向ですので発生に注意して、早めに防除を行いましょう。

ウ アスパラガス

普通栽培および立茎栽培のアスパラガスは、現在地上部の茎葉部に存在している養分が地下部へ徐々に移行する時期となります。これからの追肥は養分転流の妨げになりますので行いませんが、茎葉部を健全に保つことが株養成には重要です。倒伏防止対策をしている場合には、もう一度ネットや誘引線の確認を行いましょう。

促成伏せ込みアスパラガスの株養成においても、茎葉部を健全に保つことが収量向上につながります。倒伏させずに自然に茎葉が黄化するように心がけましょう。

フラワーネットを利用して倒伏防止している圃場の例

農作物技術情報第７号は９月２５日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※　発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※　発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

「気をつけて」 朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事